

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

項目	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	有限会社ウィル	グループホームたんぼぼの家
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県	徳之島町
記入者名 (管理者)	櫻 木 エミ子	
記入日	平成 19年 10月 10日	

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念に地域密着という言葉は明記されていないが、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支援するという意味合いは含んでいる。	○	理念に「地域の中で」という言葉の明記が必要であれば、理念の見直しを検討します。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に理念を心と頭に置いて介護を行うよう、ミーティング等で話し、日常使用する記録の用紙にも理念を印刷し、いつでも目に付き意識できるようにしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入所時、運営推進会議や家族会などで、説明し理解と協力をお願いしている。	○	認知症を多くの人に理解してもらえるよう働きかける事が、グループホームの役割の一つと考えていますが、地域の人の理解を得るために、どのような取り組みを行っていけばよいのか悩んでいる段階です。とりえず、地域に出掛けていく事は運営推進会議で助言があり実行しています。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	避難訓練に参加して頂いたりはあるが、日常的なつきあいはほとんどない。	○	町の中にあり、近所付き合いは難しい点もあるが、日常的なつきあいができるような関係を築いていきたいと考えている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の住民として自治会や地域活動に参加したいとの意思は、区長や民生委員に伝えてある。	○	社会福祉協議会主催の健康サロンに参加した。ホームを健康サロンの実施場所として使用してもらえないか相談したが断られた。地域の人との交流の機会をつくるためにどうしたらよいか検討中です。

鹿児島県 グループホームたんぼぼの家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		○	独居高齢者などが、いつでも気軽に遊びに来れる場所になればよいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回注意を受けたことは、改善に取り組んでおり、評価を受ける事で気付くことも多く、職員間で話し合い見直しを行っている。。	○	外部評価の項目の内容を読み、ホームとしてのあり方、やるべき事を再認識できる。日頃の自分たちのケアを振り返り、考える良い機会となっている。より良いホームに、ケアの質の向上につなげていきたいと思います。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	左記の内容で会議を開催し、意見をサービスの向上に活かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	研修の案内などは随時連絡を受けており、わからないことはいつでも相談している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ケアマネ研修や管理者研修等で、制度について学んでいる。現在までは、希望者や必要と思われる該当者はいない。		要望や必要性が生じた時は支援を行う。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んでいる。利用者には該当者はいない。		

鹿児島県 グループホームたんぼぼの家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	1回だけの説明に終わらず、質問があればその都度説明を行っている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	日頃から信頼関係を築けるような関わり方を心掛けており、利用者がいつでも思いを伝えられるよう傾聴の姿勢をとっている。利用者が納得いくよう、工夫や改善をしている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月ホームだよりで、左記の内容を写真を添えて送付し報告している。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族の方が、どんな事でも気軽に話しやすいよう、日頃の関わりや雰囲気作りに心掛けている。	○	家族等からの意見や苦情は謙虚に受け止め、運営の改善、ホームの質の向上に向け取り組んでいきたいと考えている。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	環境整備や地域との交流について等職員の担当を決め、毎月のミーティングで意見を聞き話し合っている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	現在のところ問題はない。行事等必要時は時間外出勤等で調整し対応できている。		勤務表を作る時点で予定に合わせ出勤者の人数を調整し、人手が足りない時は、家族の協力やボランティアを利用している。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の離職により、利用者が何らかの影響を受けた事はない。		

鹿児島県 グループホームたんぼぼの家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県内での研修は案内が届くため周知しており、必要な研修は受講している。研修は勤務とみなし出張旅費や日当を支給し研修を受けやすい体制を作っている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		○	個人での他の同業者との交流はある。これからはホームとして交流の機会を作っていきたいと考えている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ひと月の勤務、休日の希望を聞き、希望日に休める勤務表作りをしている。残業が無く定時に退出できる。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員と一緒に話し合いながら、働きやすい職場作りを目指している。	○	楽しく働き、やり甲斐を感じることを向上心に繋げてほしい。介護者が良い状態であることも、ケアの質を良くする要素の一つであると考えている。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人より、家族からの困っているとの相談が多い。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の面接は2～3回行うが、その段階で信頼関係が築けているかは疑問である。家族の話を聴き質問に答える時間は十分にとっている。		ホームのありのままを見てもらい、説明することで、過剰に期待されることなく、他の介護保険施設との違いを理解してもらっている。

鹿児島県 グループホームたんぼぼの家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅生活の可能性を検討し、居宅支援事業所のケアマネに相談したり、家族に在宅サービスを説明し、本人にとって、一番良い状態・環境を話し合っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来た時に、入所者と一緒にお茶を飲み語り合えるようにしている。	○	見学はいつでも受け入れており、入所に際しては、本人が入所を納得しているかを家族に確認している。入所前から馴染んでもらえるような取り組みは行っていきたいと考えている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人に出来る事を見極め、その状態に合わせて職員の介助の方法を変えている。できることは自分でという考えを下に、職員と一緒に作業を行い、ゆっくり、のんびり過ごしている。語らいの中には子育て論や苦労話、人生論など職員が教えられ学ぶ事も多いです。	○	本人の出来る力を引き出せる介護を工夫していきたい。調理や洗濯、買い物等職員が行う家事を、できるかぎり利用者と一緒にやる事を目標に取り組んでいる。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	小さい変化も家族に報告し、対策を相談している。本人にとっては家族が一番である事を理解してもらい、面会や行事等への参加も多数ある。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームで元気に過ごし、良い表情をしている。自宅では介護負担によるストレスや体調を壊し十分な介護が出来なかった等の話が聞かれる。少し距離を置く事でより良い家族関係が、再び築かれているように感じる。	○	家族により面回数に偏りがあるため、面会の少ない家族にもっと来てもらえるよう工夫していきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の今までの生活歴や好み等の情報を家族から聞き取り、支援に繋げていきたいと考えている。まだ、十分に実行はできていない。	○	馴染みの人や場所との関係を、再度継続していくための支援を検討していく。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士で、関わりの輪ができており職員は見守っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりが必要な利用者はいなかったが、退所後も施設や自宅を利用者と一緒に訪問し、付き合いを続けている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとって居心地の良い環境(人、物)を作れる様、本人家族、職員で話し合い検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や在宅でのケアマネ等関わりがあった人達から情報を得ており、居宅ケアプランも参考にしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護日誌やケース記録、ミーティング等で情報交換を行い、本人の状態を把握し、問題点を話し合いケアに繋げている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族それぞれの意向を確認して、介護計画を作成している。	○	その人らしさを支援する介護計画にはまだ成りえていないため、ケアマネのスキルアップも含め、今後も、利用者本位の介護計画を作成する工夫を行っていく。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的モニタリングを行っている。変化があった場合、現場の対応が先行し、介護計画が後になる場合もある。		

鹿児島県 グループホームたんぼぼの家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉、その時の状況、影響を与えていると考えられる事、ケア者の気付いた事といった記録方法をしている。その人の立場で考え自分のケアを振り返ることができ、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望があった時はそれに応じ、柔軟に対応する体制はある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要時は、それに応じた協力が得られるような体制はある。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	要望があれば、左記の通りそれに対応する体制はある。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ実績はないが、必要があれば対応できる体制はある。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の利用、病院受診介助等で、本人と家族が希望する医療は受けられている。		

鹿児島県 グループホームたんぼぼの家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	島内に認知症の専門医はいないため、主治医に状態を相談している。精神科を受診している利用者もいる。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問診療を受けている病院の訪問看護に相談ができ、助言や医者からの指示を受ける事ができている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ソーシャルワーカーや看護師と連絡を取り、早期に退院できるよう努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族会で、ターミナルケアに今後取り組んで行く方針であることを報告した。ターミナルケアを行っているホームから契約書をもらい、情報をもらった。	○	ターミナルケアは今後取り組んで行きたいと考えており、体制作りに取り組んでいきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	検討や準備を行っていかねばならないと考えている段階である。	○	
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい居所での生活がスムーズにいこう、関係者との情報交換、担当者会議への出席、居所の環境整備、日用品の買い出しなど支援した。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護従事者の守るべき基本姿勢であり、十分配慮している。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ケアの場面場面でその都度、本人の意思を確認し、選択してもらうなどで自己決定を促している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	洗濯物の片付けや炊事の手伝いなど、本人のペースでゆっくり行ってもらい、職員は見守っている。	ゆっくり、のんびり、楽しくの理念に添い、その人のペースに合わせることで利用者の楽しい気持ちにつながると考え、ケアを行っている。利用者により振り回されることも多くあります。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	長年行きなれた理容室へ定期的に出掛ける。家族が美容院への付き添いをする。職員に美容師の有資格者がおり、要望があった時に対応している。女性は眉毛カットや顔そり等も職員が介助している。日中は寝巻を着ない、普段着と外出着は分ける等身だしなみに配慮している。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好みをメニューに取り入れる。朝食は和食、洋食が選択できる。出来る事を見極め、調理、配膳、片付け等の役割を職員と一緒にやっている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	焼酎、ビール、牛乳等、好きな時に飲める様準備されている。	

鹿児島県 グループホームたんぼぼの家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行い、トイレ誘導により、気持ちよい排泄を促している。リハビリパンツ、失禁用布パンツ、ポータブルトイレ等、その人に合わせた排泄パターンを職員全員で検討し介助している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	左記のように行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない時は添い寝をする等、その人にあつた支援を心掛けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	心身の活性ができるような過ごし方を意識し、ケアに当たっている。	○	どのように過ごしてもらうか、今後も工夫していきたいと考えている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い銭を自己管理し、近所の店に買い物に行く人。おもちゃのコインを大事に管理している人。全介助を受けている人等、一人ひとりの状態に合わせた支援を行っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自宅への外出、ドライブ、買い物等、随時外出を行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホテルでのランチ、墓参り、花見、海山へのドライブ等、職員や家族が付き添い行っている。		

鹿児島県 グループホームたんぼぼの家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族以外の馴染みの人の面会も多数あり、居室や食堂で一緒にお茶を飲みながら過ごしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は無い。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを行っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	出勤者全員が、所在を意識しながら業務を行うよう心掛けている。夜間は巡視を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗濯洗剤や漂白剤等は、夜間は鍵のかかる場所に移し管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日常のヒヤリとした事ハットした事を、小さな事でもヒヤリ・ハット報告に記録し、職員全員で対策を話し合い事故防止に取り組んでいる。		

鹿児島県 グループホームたんぼぼの家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急連絡網、緊急時対応マニュアルは備えてある。火災に対する避難訓練は行っている。	○	定期的な訓練は行っておらず、今後取り組んでいきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災の避難訓練は行っており、応急手当の方法は一応学んでいる。近隣への協力をお願いしており、近くに住む職員や家族の協力が得られる体制はある。	○	夜間を想定した避難訓練が行われていないため、今後取り組んでいきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所時に、転倒等の事故が起こり得ることは、家族に説明し理解してもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	状態の観察を行い変化がないか注意をはらっている。申し送りを実践に行い職員全員が適切な対応ができるようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	正確な服薬介助を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行っている。毎朝、牛乳を飲んでもらい、食事にも配慮している。下剤服用者は、排便状態をチェックしながら服薬支援を行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝と夜に歯磨きを行っている。歯科衛生士を招いて、口腔ケアの指導を受け、毎食後に口腔ケアを行っていたが、継続することができなかった。		今後、毎食後に口腔ケアを行ないたいと考えている。

鹿児島県 グループホームたんぼぼの家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合わせて食べやすいように工夫し、職員も一緒に食べながら食欲を高め、楽しく食べられるような言葉かけを行なっている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを設置している。感染症にかかった時は、速やかに病院を受診し、主治医の指示に従っている。手洗いの徹底と消毒薬を使用し感染を予防している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	いつも清潔であるよう心掛けており、食材も安全なものを使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	いつも玄関は開けた状態にしており、自由に出入りできる。花や絵を飾り雰囲気作りに工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓やドアを開けており、自然の風や音が感じることができる。午後から差し込む西日は、よしずで防いでいる。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間、ソファー、食堂、居室と思い思いに好きな場所で過ごしている。		

鹿児島県 グループホームたんぼぼの家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から長年使い慣れた馴染みの物を持ち込み、居心地よい環境になるよう話し合い工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気を行い、臭いや室温にも配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴槽に手すりを設置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室に目印をしたり、トイレには張り紙をする等わかりやすいよう工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	各居室に縁側があり、自分で手洗いした洗濯物を干している。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

鹿児島県 グループホームたんぼぼの家

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	数日に1回程度
		<input type="radio"/>	たまに
		<input type="radio"/>	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	大いに増えている
		<input type="radio"/>	少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	あまり増えていない
		<input type="radio"/>	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「ゆっくり」(その人のペースで。優しい言葉遣い。穏やかに過ごせる様に)「のんびり」(安心感を与える。柔軟に接する。)
 「楽しく」(自尊心を傷つけない。傾聴し、わかりやすく話す。) 理念の「ゆっくり、のんびり、楽しく」のように、利用者に毎日を過ごして頂けるよう、職員は()書きした姿勢を常に心掛けケアを行っている。利用者
 と職員と一緒に何でも行うことを目標に、調理や洗濯、買い物等の家事に少しでも利用者に関わってもらい、日常生活動作を通して、身体機能の維持や認知症の進行防止
 などのリハビリができるよう支援している。近くの保育園に遊びに行ったり、中学生のプルタブ集めに協力し、集めたプルタブを回収に来た生徒達と交流したり、行事にたくさ
 んのボランティアさんが来て唄や踊りを披露してくれたり、職員の弾く三味線で島唄を歌ったりと、なにかしら賑やかに楽しく毎日を過ごしています。認知症でも、地域の中で
 その人らしく暮らし続けることを支援するため、グループホームとしての役割をきちんと認識し、認知症を地域の人に理解してもらえようような働きかけを、職員と利用者
 と家族と一緒に行っていきたいと考えています。